

情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波利用環境委員会 CISPR F 作業班(第 29 回)

議事要旨

1 開催日時：令和 7 年 7 月 28 日（月）14:30～16:00

2 開催場所：Web 会議開催 (Cisco Webex)

3 出席者（敬称略）

【構成員】山下主任 (JET)、高岡主任代理 (日本照明工業会)、井上構成員 (東陽 EMC)、大武構成員 (日本照明工業会)、菅野構成員 (NTT-AT)、徳田構成員 (東京大学)、中野構成員 (JEMA)、永野構成員 (ARIB)、橋本構成員 (NHK)、平伴構成員 (KEC)、前川構成員 (ダイキン)、三塚構成員 (TELEC)、山中構成員 (NICT)

【関係者】久保田関係者 (TELEC)

【事務局】総務省：今泉電波監視官、郷藤電磁障害係長(記)、内田官

4 議事概要

(1) CISPR F 小委員会 WG 等 国際会議審議結果

WG1 の審議結果について、前川構成員より資料 29-1-1 に基づき説明が行われた。補足・質疑応答は以下のとおり。

山中構成員：f7 について、1GHz 超のピーク測定で許容値を超えたものがあまり無いとのことだが、APD で測定するメリットはあるのか。

前川構成員：ノイズの発生が無いというわけではなく、妨害波電流測定で終わって放射測定をやっている事例がほぼ無いので、検討するデータがないということである。整流子モータ等の広い範囲でノイズが発生するような製品でないと検討するデータとして使えないのではないかと話であった。

山中構成員：必要がないものを急いで決める必要は無いのではないかと。また、データを取るのには良いが、今後提案する APD 許容値で通信に影響がないと最終的には言ってほしいので、APD のデータを取るだけで終了とは思えないと思われる。

前川構成員：仰るとおりで f7 の優先順位を下げるべきであった。

山中構成員：2 項の CISPR 14-2 の 884/CD となっているが、864 か 886 の誤記ではないか。

前川構成員：修正する。

久保田関係者：3 項の CISPR 14-3 について、記載されているタイトルは暫定的なものと思われるが、CISPR 11 は Professional とかは使用していない。この表現だと CISPR 11 と混同してしまわないか。

前川構成員：まだ構想段階のものであるが、IEC 61000-6-3 と 6-8 の関係のように、商業・軽工業で利用する機器は CISPR 14-3 となり、さらに Professional Equipment

として 6-8 にある三つの要件を満たす場合は 14-3、満たせない場合は 14-1 の対象となる。

久保田関係者：考えは理解できるが、CISPR B でも問題を抱えており、例えば電気自動車の WPT は、一般家庭に設置される場合はクラス B となるが、商業施設等ではどうなるかという議論があり、本件と同様に難しい。CISPR F としては検討を開始したところとのことなので、良く検討してほしい。

平伴構成員：Professional というのは、施工業者か使用者のどちらになるのか。

前川構成員：まだまとまっていない。IEC 61000-6-8 に記載の三つの要件、①一般的に販売されない、②専門の人に設置されて、メンテナンスされるもの、③住宅環境での使用を意図していないもの、となっており、これと同様になると思われる。

井上構成員：f6 で「FAR におけるハイトスキャン」とあるが、GHz 帯では床にも吸収体を敷くので FAR と同じである。現行はアンテナをスキャンしないが、それを上下に動かすという見直しか。

前川構成員：まだ規格案が出てきていないが、話を聞くと FAR で大きな冷蔵庫を測定できるようにしたいということを目的としている。

井上構成員：CISPR 11 でも問題となっているが、CISPR 16-2-3 では大きなものはアンテナを後ろに下げるとなっており、それと合わなくなるが、どうするのか。

前川構成員：CISPR A での議論が明確にならないと変更提案できないので、CISPR A を睨んでの再検討となるかと思われる。

次に、WG2 の審議結果について、高岡主任代理より資料 29-1-2 に基づき説明が行われた。補足・質疑応答は以下のとおり。

前川構成員：電流プローブの使い方について、ディファレンシャルモードの成分が大きいと注意が必要とのことだが、例えばエアコンは電流が 15~20A 流れたりするが、気をつけないといけないということか。

高岡主任代理：調光器は大きな交流の負荷電流が流れるが、交流ではほとんど変化がなく、直流で矩形波だとかなり影響が出る。

山下主任：交流の位相式制御の調光器で実験されたのか。

高岡主任代理：然り。

山下主任：ノイズの成分が高周波側まで届いていなかったとかか。プローブの角度を変えても差が無かったのか。

高岡主任代理：然り。原因は不明である。

(2) CISPR F 小委員会 ニューデリー会議 対処方針(案)について

CISPR B 小委員会 総会の対処方針案について、高岡主任代理より資料 29-2 に基づき説明が行われた。補足・質疑応答は以下のとおり。

前川構成員：最終ページの CISPR A のリエゾン文書番号 905 は一つ上の SC 77B の番号の間

違いである。

高岡主任代理：修正する。

山下主任：安定期間のところで CISPR 15 が Ed 9.0 になっている。

高岡主任代理：修正する。

次に、WG1 の 1 対処方針案について、前川構成員より資料 29-2-2 に基づき説明が行われた。特に補足・質疑応答は無かった。

(3) 電波利用環境委員会 報告(案)について

電波利用環境委員会報告案について、高岡主任代理より資料 29-3-1 及び資料 29-3-2 に基づき説明が行われた。補足・質疑応答は以下のとおり。

平伴構成員：今回の議題には入っていなかったが、IEC 61000-4-2 が今年の 3 月に改定された。CISPR 14-2 について、それに合わせた改定の動きが何かあるか。

前川構成員：関連するものとして IEC 61000-4-2 が改定済、4-34 の改定が近々発行予定、4-4 が改正中という状況である。ニューデリー会議等が終わらないと確定的なこととは言えないが、個人的な感触としては、基本的に 14-2 への影響は無く、試験法に影響があるかと思う。

山下主任：FDIS 版で最新版を引用するのが原則になるので、反論が無ければ最新版になるかと思う。

前川構成員：メーカーには影響なく、試験機を使っている方が影響を受けるかと思う。

(4) CISPR F 小委員会 ニューデリー会議 参加者(案)について

参加者案について、山下主任より、資料 29-4 に基づき説明が行われた。特段の異議は無く、承認された。特に質疑応答は無かった。

(5) CISPR 15 第 9.1 版の国内答申(案)の作成について

電波利用環境委員会報告案について、高岡主任代理より資料 29-3-1 及び資料 29-3-2 に基づき説明が行われた。特に補足・質疑応答は無かった。

(6) CISPR 15 国内答申アドホックグループへの参加について

CISPR 15 国内答申アドホックグループへの参加について、事務局より、参加を希望の場合 は 8 月 29 日(金)までに事務局へ連絡するよう説明があった。特に質疑応答は無かった。

(7) その他

資料 29-3-1 及び資料 29-3-2 を、8 月 20 日(水)に開催される電波利用環境委員会(第 63 回)で報告する。

次回作業班については、事務局より別途連絡する。

以上